ジュニア編集局が行く!!　パート３

マリノスタウン取材！

横浜みなとみらいにある、マリノスタウンは、横浜Ｆ・マリノスのトップチームやユースチーム等のトレーニング施設（しせつ）で、横浜Ｆ・マリノスの拠点（きょてん）施設です。

取材日は、筑波（つくば）大学ＶＳ横浜Ｆ・マリノスの練習試合を行っていました。プレーしている選手達の表情が見える位置で見学し、選手達の気迫（きはく）を感じることができました。

試合後のインタビューで、サッカーをはじめたきっかけについて聞くと、奈良輪雄太（ならわゆうた）選手は「周りの人がサッカーをやっていたから」、佐藤優平（さとうゆうへい）選手は「兄と一緒にサッカー教室に参加したこと」とのこと。気さくでやさしいお兄さんのような選手でした。

同日全国から 16 のチームが参加する、「U12F・マリノスカップ」という小学６年生までのチームの対戦も開催されていました。プライマリー選手達は、多くがサッカー選手を目指していて、マリノスのトップチームでプレーしたいという夢を持つ選手もいました。試合時は真剣な表情で、同年代には思えませんでしたが、取材で話しているときには私たちと変わらない小学生でした。

マリノスタウンでは、トップチーム選手の練習や練習試合を観客席から見ることができます。（2013. 8. 11 取材）

横浜市営地下鉄ブルーラインの秘密

ブルーライン上永谷車両基地は、地下鉄26編成（へんせい）(156両)を収容（しゅうよう）できます。ここでは主に３つの仕事をしています。１つめは「信号扱（あつか）い所」。基地（きち）内で車両が移動（いどう）するときに信号を出し、線路のポイントを操作（そうさ）して車両の進路を変えたりする仕事です。２つめは「能力（のうりょく）開発センター」。地下鉄やバスの運転手になるための学習や試験、また、職員の能力を伸ばす勉強をする場所です。そして３つめは、「上永谷保守管理所」。ブルーラインを安全に走行させるため、電車や施設の管理をする仕事です。ブルーラインの安全は、ここで守られています。

上永谷車両基地の取材をして、安全に走るためにいろいろなことをしていることがわかりました。例えば、出発用ボタンを押すと次駅まで制限（せいげん）速度をこえないように自動運転してくれる、ＡＴＯ機能。これは間違（まちが）えて押しても２つ同時におさないと作動しないようになっています。また、災害（さいがい）時には大雨などでも、浸水（しんすい）したりしないよう、入口に止水板があります。

人にも環境にもやさしく、安全で便利な地下鉄をこれからも利用しようと思いました。（2013. 8. 16 取材）

横浜から世界へ、スイマー五十嵐千尋選手を取材！

小学生の頃からさまざまな大会ですばらしい記録を出している水泳自由形選手、高校生スイマーの五十嵐千尋（いがらしちひろ）選手。北山田の横浜国際プールで開かれる、神奈川県高等学校水泳競技大会に出場されると聞き、取材にうかがいました。

五十嵐さんはこの日、女子 200 メートルフリーリレー決勝に出場し、第一泳者として出場、一着で第二泳者につなぎました。タイムは 26 秒 27。50 メートルがあっという間でした。五十嵐さんのチームは三位でした。

五十嵐さんは青葉区在住、日本大学藤沢高等学校３年生です。水泳選手なので、もっとがっしりとした体格なのかと思っていましたが、制服（せいふく）を着ていると、普通のやさしいお姉さんでした。どこからそのパワーが出てくるのでしょうか。

水泳を始めたのは、三歳（さい）から。今は週に 10 回、１回に３時間練習し、多い時は１回約 9 km泳いでいるそうです。１日に２回以上練習する日もあり、すごい練習量だと思いました。

東京でオリン ピックが開催（かいさい）されることが決まり、これからの五十嵐さんの活躍（かつやく）が楽しみです。（2013. 8. 24 取材）

都会の中に残る里山「茅ヶ崎公園自然生態園」に行きました

センター南駅から歩いて 10 分のところに茅ヶ崎公園自然生態（せいたい）園があります。ここでは樹林（じゅりん）や水辺の動植物などを大切に 保護（ほご）しています。中に入るとヒグラシなどの鳴き声が聞こえ、水辺にはアメンボなどがいて、都会的な駅前からは想像（そうぞう）もつかない自然豊かな場所でした。それらを守るため、土日祝日の 9 時から 16 時しかはいれないよう制限しています。

取材した日は、ため池で水質調査（ちょうさ）を行っていました。魚が住める環境なのか、また、水質が変わると、どう生き物に影響（えいきょう）があるのかを調べるために行っています。昔、自然生態園のため池は池の底がみえるくらい水がすき通っていて、池でよく遊んで、泳ぎ方を覚えたそうです。「昔からある日本の草花が残るように草取りや、竹林整備（せいび）など少しだけ人間の手を加えて、自然を守りたい」と自然生態園事務局長の亀田さやかさん。里山を守る活動を理解してもらうため、地域のみなさんと、観察会や昔ながらの米作り体験、水辺たんけんや草木染め、草だんご作りなどを行っています。機会があれば、都筑の中に残された昔からの里山の空気を感じてみてはいかがでしょうか。（2013. 9. 14 取材）

港北ニュータウン支店を取材、スポーツごみ拾いに参加しました！

センター北駅ビルの“あいたい”５階にあるリスト株式会社（かぶしきがいしゃ）は「いい物件リスト」という地域の不動産（ふどうさん）やさんですが、「スポーツゴミ拾い」というイベントに協賛（きょうさん）していて、地域の方たちとまちを美しくする活動をしています。

どうして不動産やさんがゴミ拾いイベントをはじめたのですか？と聞いてみると、いまから１０年以上前、リストの社員が、駅から自分の会社までの道にゴミが多く、とても気になったことから、そのような街には、お店にくるお客さまも住みたくないだろうと思い、自分たちでゴミ拾いを始めました。それが、みんなで楽しみながら参加できる「スポーツごみ拾い」のイベントに発展していったそうです。この他、地域のこどもたちのスポーツの大会を応援（おうえん）したり、横浜 DeNA ベイスターズのヘルメットにも「リスト」の文字が入っていて、地元の野球チームをささえています。

取材に応じてくれた店長の大橋さんは、とても話しやすいお兄さんのような人でした。大橋さんがこの街を紹介するときには「子育て世代はとくにくらしやすい街。公園が多く、緑がいっぱいで、その公園を結んでいる緑道は安全に歩ける。駅周辺には、映画館（えいがかん）やスーパーマーケットなどお店がたくさんあり、とても便利な街」と話すそうです。

主に春と秋にセンター北駅前広場で、いい物件リスト杯センター北大会のスポーツゴミ拾いが開かれています。ジュニア記者も参加してみました。日曜の朝、駅前広場に集まり、100 名が 23 チームに分かれて楽しみながらゴミ拾いし、ごみ量を競いました。実際にゴミ拾いしてみると、きれいだと思っていたセンター北の駅前も植え込み、建物のすきまにゴミが多く、ベンチの下にはタバコのすいがらがたくさん落ちていて、終わってみると、全部で１８０キロものゴミが集まりました。楽しみながら街をキレイにできてよかったです。また参加したいです。（2013. 9. 23&11. 16 取材）

広告

「いい物件リスト」は、
「リスト サザビーズ インターナショナル リアルティ」へ。

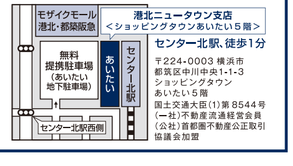
私たち「リスト」は、お客様の更なる満足の向上を目指して、2014年1月、サービスブランド名を「いい物件リスト」から「リスト サザビーズ インターナショナル リアルティ」へ変更して生まれ変わりました。
世界中のセレブリティを魅了するオークションハウス同様、世界に二つとない特別な不動産をお届けしている「サザビーズ インターナショナル リアルティ®」の世界的なネットワークを活用することで、より充実したサービスを国内外の皆様にご提供できるようになりました。新しい「リストグループ」に、ぜひご期待ください。

List | Sotheby's INTERNATIONAL REALTY

Sotheby's International Realty and the Sotheby's International Realty logo are registered (or unregistered) service marks used with permission. Each Office Is Independently Owned And Operated.

List | Sotheby's INTERNATIONAL REALTY

リストサザビーズインターナショナルリアルティ
港北ニュータウン支店
【電　　話】045-913-8111
【営業時間】10:00～20:00【定休日】水曜日
【ＵＲＬ】listsothebysrealty.co.jp



センター北駅、徒歩１分
〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-1-3 ショッピングタウンあいたい５階
国土交通大臣(1)第8544号（一社）不動産流通経営協会（公社）首都圏不動産公正取引協議会加盟

ジュニア編集局が行く!!　パート２

かなフィルコンサート

横浜駅のコンカード横浜で行われた「アート緑日」で「神奈川フィルハーモニー管弦楽団弦楽四重奏団」の演奏（えんそう）会が行われ、第一バイオリンの奏者、青木るねさんにお話をうかがうことができました。

演奏家として大変なことは、「練習が大変です。でも、練習をしていると「大変」が「楽しい」にかわっていくんですよ」と教えてくれました。本番は「曲のイメージを思い浮かべて演奏しています」とのこと。お客さんのアンコールの拍（はく）手が本当にうれしいそうです。

この日も多くの人が足をとめて、演奏に聞き入っていました。このように街の中で本かく的なコンサートが気軽に楽しめることは、とてもいいと思いました。（2013. 10. 12 取材）

横浜の秘密基地、野村総合研究所のデータセンターを取材！

「野村総合研究所」の横浜第二データセンターを取材しました。データセンターとは、たくさんのコンピュータを安全に動かすことができる施設（しせつ）で、地震や停電が起きてもコンピュータを動かせる設備（せつび）が整っています。完備されている３台の「自家発電機」で、データセンター全体が必要とする電力を数日間保つことができます。

NRI【野村総合研究所】は主に２つの仕事をしています。１つ目は社会がスムーズに動くためのお手伝いで、お店の注文をさまざまな工場に伝え、作った商品をすばやくお店に届けるためのシステムや、証券会社で株の取引をするためのシステムなどを作っています。２つ目は情報システムを通じて、企業の課題を解決するためのコンサルティングで、どのようなものが売れ、社会に必要とされているのかをリサーチして、企業に提案します。コンピュータを人のために使い、そのおかげで人が楽になるという発想で情報システムを手がけるNRIは、私たちの身近でもたくさん活やくしています。（2013. 11. 12 取材）

パリで会議！？あなたの身近にある”図研”

図研は、「プリント基板設計（せっけい）用CADシステム」で国内で第１位、世界でも第２位のシェアがあります。「プリント基板設計用CADシステム」とは、私たちの身近にある、携帯電話やカメラ、車やせんたく機などを動かすのに必要な「プリント基板」を設計するためのソフトのことです。

社員５人からスタートしたベンチャー企業が、今では世界13カ国にきょ点を持つ会社へと成長しました。その本社が都筑区にあるとは、区民の誇りです。

私たちは、そんな図研本社建物内部への取材を行うことができました。人と人との出会いを大切にしているこの会社では、建物の周りに沢山の木々を植えたり、敷地内にそれぞれに意味のあるオブジェを飾っています。また、会議室は「ヨコハマ」「パリ」「ミラノ」など名前がついていて、本社が建てられた時、図研のきょ点があった都市を部屋の名前にしています。「今日はパリで会議ね」と都筑区のパリで会議が行われるのです。

世界のものづくりを支える企業「図研」は、見えないところで、私たちの生活を支えてくれています。（2013. 11. 13 取材）

JA まつりで、食育体験！

ＪＡ横浜きた総合センターにて、ＪＡ横浜「きた地区ＪＡまつり」が行われ、その中での食育体験をしてきました。昔ながらの方法での稲のだっこく、もみすり体験で、稲穂から普段私たちがたべているお米にするまでの体験です。

お米がこんなにていねいに苦労して作られてきたことを初めて知りました。昔の人は、手で１粒１粒とっていたそうです。食べ物を大切にしなくてはいけないなと思いました。

都筑は人口が増えて、農地は大幅に減っていますが、それでも農家の数は横浜市では一番です。また都筑の代表的な農産物は、野菜は小松菜とほうれん草、くだものは、なし・柿・みかんだそうです。地元でとれるおいしい野菜やくだものをこれからはもっと食べていきたいと思いました。（2013. 11. 16 取材）

都筑区の自慢！横浜ビー・コルセアーズ

バスケットの迫力やエンターテインメントさは、会場に足を運んでこそわかります。

横浜文化体育館の記者席で見せてもらった群馬クレインサンダーズとの試合は迫力満点。終了時間ギリギリでのシュートで横浜ビー・コルセアーズが勝利。ドキドキワクワクの試合でした。

試合の休けい時間には、チアリーダーが、楽しく応援の仕方を教えてくれたり、中高校生のバスケ部が招待されていて、シュート決めた人にプレゼントがあったりと、楽しい企画もありました。

ヘッドコーチは、「バスケは1人で練習するより、多人数で練習したほうが楽しいし、上手になるよ」と教えてくれました。山田選手は、小学校のときにバスケをはじめたそうです。試合のときにはすごく強くて、真剣な表情だったので、インタビューできるか心配でしたが、実際に近くでお話してみると、とても優しく、親しみを感じました。

横浜ビー・コルセアーズは昨年、日本一になったチームです。そんなチームが都筑区で多くの試合を開催していることは都筑の自慢です。試合を見に行って、横浜ビー・コルセアーズを盛り上げましょう！（2013. 11. 16 取材）

おうち CO-OP のキャンペーンを体験取材しました！

みなさんは、食材の宅配（たくはい）を利用したことがありますか？真っ赤なトマトが目印の生協の宅配、「おうちCO-OP」は、神奈川、山梨、静岡の三県で約44万人が利用している県内利用者数NO. 1の生協の宅配サービスです。こだわりの産地直送のものから、スーパーで売っている商品まで、毎週2, 700品目もの商品を扱っています。

今回は子どもたちがたくさん集まるファンタジーキッズリゾート海老名という遊び場の一角での、おうちCO-OPの紹介キャンペーンを、ジュニア記者が体験取材しました。

この日はヨーグルト、プリン、アイスキャンディを試食してもらうお手伝いをしました。室内はとても暖かく、冷たいデザートは大人気でした。

おうちCO-OPに入ることを決めた、という方にインタビューしてみました。元気いっぱいのたくさん食べるお子さんが3人いるという方は、「いままでおかずセットの宅配を使ったことがあるけど、おうちCO-OPの利用は初めて。忙しくて買い物にいく時間が取れないとき、配達してくれるのが助かりそう」と話していました。

おうちCO-OPでは、冷凍、冷蔵のものも保冷箱（ほれいばこ）で届けてくれます。共働きや留守がちな方にも品質を変えずに食材を安全安心にお届けするために「おうちカバー」というサービスも行っています。

玄関先においてあっても、中身をいじられたりすることがないように、おうちカバーと呼ばれるカバーをかけ、封印シールを貼って開けられていないことが確認できます。そのように商品の安全確保がされていることに感心しました。

赤ちゃんを抱っこしたお母さんは「0歳児がいると、宅配料が無料になると聞き、うれしくなりました。赤ちゃんと一緒の買い物は大変なので、利用を決めました」と話してくれました。

私たちジュニア記者もヨーグルトやアイスをいただきました。室内はかなり温度が高くなっていましたが、保冷箱に入ったヨーグルトやアイスはすごく冷たくておいしく、保冷箱ってすごいなと思いました。（2013. 12. 3 取材）

広告